

甲南医療センター

小児科

指導担当医（役職）

太田 國隆（副院長・小児科部長）

実習概要

実習コース

2週間コース

概要

小児科の主治医団の一員として診療に参加します。数人の患者を受け持ち、毎日、朝夕に病室に訪れ医療面接と身体診察を行います。担当患者について、週2回のカンファレンスでプレゼンテーションを行い、主治医団とディスカッションを行います。

外来見学では、急性肺炎や急性腸炎などの感染症や、小児特有の疾患について外来担当医とともに診察し、実際の患児の状態を把握し、検査計画を立て、評価していきます。小児科では緊急入院になる児も多く、入院になった場合は、主治医団の一員として毎日の経過と治療効果の評価、退院までの経過を学びます。また、アレルギー専門医2名、頭痛専門医1名が在籍しており、専門外来での慢性疾患の経過について学びます。

実習スケジュール

1. 主治医団としての実習：毎朝、毎夕、担当症例を診察し、病状を把握する。
 - ① 病棟担当医と毎朝回診する。検査や処置がある場合は同行する。ICは病室で診察後に直接行われることもあるため、必ず同席する。主治医団として複数の患児を担当する。
 - ② 小児科カンファレンスでは担当患児についてプレゼンテーションを行う。
 - ③ 心エコー、腹部エコーなどの検査には同行する。
2.
 - ①小児病棟の診察前後に新生児室にも同行して、早期新生児の診察を行う。
 - ②緊急帝王切開などリスクの高い分娩には小児科医といっしょに分娩室・手術室で待機し、新生児の処置について学ぶ。
3. 救急外来：救急搬送をはじめとする小児の救急疾患について、救急時間外担当医とともに診察、処置の見学を行う。
4. 乳児健診や予防接種などに同席し、健康な子どもを診ること、生活の一端を知る。
5. 研修医向けのレクチャーに参加する。（小児科医師各自1回ずつ、計7回）
6. 実習期間中に受け持った症例についてレポートを作成、カンファレンスで発表する。

学生へのメッセージ

楽しくなければ小児科ではない。

小児科にくる子どもたちはいろいろな問題を抱えています。感染症をはじめとする急性疾患であったり、アトピー性皮膚炎や喘息などの慢性疾患、原因のわからない頭痛や腹痛など症状はいろいろです。それでも、すぐに子どもは元気になります。元気になった子どもたちも見てほしいと思います。

疾患についてだけ学ぶのではなく、子供の成長や発達に目を向けることで世界が広がります。できるだけ子どもとコミュニケーションをとること、子どもとの触れ合いで何かをつかんでもらえればと思います。